



全労生・議長（自動車  
総連会長）

相原 康伸

新年明けましておめ  
でとうございませう。

昨年は、政府、日銀

がデフレ脱却に向け、

金融政策、財政政策の

舵取りを変化させた1

年でした。

日銀が市場に供給す  
る資金の合計、いわゆ  
る「マネタリーベース」

を2年で2倍に増やす

大規模な金融緩和策の

導入がされ、昨年12月

の月例経

済報告に

おいて、

物価の判

断から

「デフレ」の表現が4

年2カ月ぶりに削除さ

れました。

本年は、まさしく長

期にわたる困難から抜

け出すための正念場の

年となりますが、20

14春闘に関連して一

言申し上げます。

春闘で労使が話し合

うテーブルには、将来

の企業ビジョンから職

場の片隅で起きている

問題まであらゆるもの

がのっています。企業

にとって耳障りの悪い

話、時に働く者にとっ

てもさらなる努力を要

する現実に労使が真摯

その過程から導かれ

る労働条件決定だから

こそ意味があると考え

ます。協議・交渉の過

程にも、もちろん結果

に引き合い、より高い

競争力を得るための働

き方を追求しながら、

働く者の成長とやりが

い、将来を見通せる職

場の安心感を育んでい

くことにあります。

を負うことが前提で

す。その意味で、労使

協議、公正配分、雇用

拡大の「生産性三原則」

の精神を最大限に発揮

する、そうした201

4春闘でなければなら

ないと考えます。

また、そうせねば、

デフレ脱却、持続的な

日本経済の成長と安定

実践が問われる本年で

あり、労働組合も気合

を入れて自らの主張を

展開していく必要があ

ります。

「昨日より今日、今

日より明日を」と頑張

っている仲間を報いる

ため、そして持続的な

成長を確かなものとす

るため、本年も生産性

運動を労働組合の立場

から全力で推進して参

ります。

本年も全労生の取り

組みに、一層のご指導、

ご支援をお願い申し上

げます。

## 持続的な成長を確かなものに

## 労組生産性運動を全力で推進